

## 全国あこがれ温泉地 ランキングベスト30

まだ行ったことはないが

「一度は行ってみたい」温泉地

(複数回答5つまで) (n=16,107)

順位	温泉地名	都道府県	集計対象数	昨年順位
1	乳頭温泉郷	秋田県	2592	1 →
2	草津温泉	群馬県	2397	2 →
3	銀山温泉	山形県	2371	3 →
4	登別温泉	北海道	1919	6 ↑
5	道後温泉	愛媛県	1904	4 ↓
6	由布院温泉	大分県	1792	5 ↓
7	有馬温泉	兵庫県	1598	7 →
8	箱根温泉	神奈川県	1569	9 ↑
9	下呂温泉	岐阜県	1521	8 ↓
10	熱海温泉	静岡県	1420	11 ↑
11	黒川温泉	熊本県	1380	10 ↓
12	別府温泉郷	大分県	1337	12 →
13	指宿温泉	鹿児島県	1278	13 →
14	八甲田温泉・酸ヶ湯温泉	青森県	1256	14 →
15	鬼怒川温泉	栃木県	1124	15 →
16	奥入瀬溪流温泉・十和田湖畔温泉	青森県	851	17 ↑
17	蔵王温泉	山形県	806	19 ↑
18	加賀温泉郷	石川県	785	16 ↓
19	二セコ温泉郷	北海道	768	20 ↑
20	洞爺湖温泉	北海道	758	18 ↓
21	伊香保温泉	群馬県	726	21 →
22	城崎温泉	兵庫県	660	23 ↑
23	和倉温泉	石川県	609	22 ↓
24	雲仙温泉	長崎県	534	30 ↑
25	秋保温泉	宮城県	500	28 ↑
26	阿寒湖温泉	北海道	474	27 ↑
27	黒部峡谷温泉群	富山県	447	26 ↓
27	玉造温泉	島根県	447	29 ↑
29	白骨温泉	長野県	446	24 ↓
30	宇奈月温泉	富山県	437	25 ↓

## 全国温泉地1年間の 訪問経験

### ランキングベスト30

最近1年間に「行ったことがある温泉地」

(最近1年間=2022年8月～2023年8月頃を指す。以下同)  
(複数回答) (n=16,107)

順位	温泉地名	都道府県	集計対象数	昨年順位
1	箱根温泉	神奈川県	1701	1 →
2	熱海温泉	静岡県	1213	2 →
3	草津温泉	群馬県	1093	3 →
4	下呂温泉	岐阜県	959	5 ↑
5	道後温泉	愛媛県	896	12 ↑
6	鬼怒川温泉	栃木県	813	4 ↓
7	有馬温泉	兵庫県	779	7 →
8	別府温泉郷	大分県	774	6 ↓
9	伊香保温泉	群馬県	755	8 ↓
10	那須温泉	栃木県	688	10 →
11	湯河原温泉	神奈川県	666	11 →
12	石和温泉	山梨県	650	36 ↑
13	登別温泉	北海道	633	13 →
14	嬉野温泉	佐賀県	614	14 →
15	伊東温泉・宇佐美温泉	静岡県	606	9 ↓
16	定山渓温泉	北海道	605	17 ↑
17	加賀温泉郷	石川県	544	27 ↑
18	淡路島の温泉 (洲本温泉・南あわじ温泉郷・岩屋温泉)	兵庫県	537	16 ↓
19	鳥羽温泉郷	三重県	523	23 ↑
20	城崎温泉	兵庫県	509	18 ↓
21	奥飛騨温泉郷	岐阜県	503	15 ↓
22	飛騨高山温泉	岐阜県	492	20 ↓
23	秋保温泉	宮城県	491	22 ↓
24	塩原温泉	栃木県	454	19 ↓
25	洞爺湖温泉	北海道	445	28 ↑
26	湯の川温泉	北海道	444	32 ↑
27	皆生温泉	鳥取県	436	43 ↑
27	由布院温泉	大分県	436	21 ↓
29	あわら温泉	福井県	428	46 ↑
30	黒川温泉	熊本県	424	26 ↓

もう一度行ってみたい温泉地を尋ねる「全国人気温泉地ランキング」は草津温泉が41票差で1位を奪還。草津温泉は足湯を備えた立体交差「温泉門」が昨年10月に完成。箱根温泉は交通や店舗の混雑状況を可視化しサポーターする「箱根観光デジタルマップ」を昨年11月にリリース。どちらもスムーズな周遊に繋げる取り組みを行っている。調査開始以来徐々に順位を伸ばしてきた道後温泉、有馬温泉がそれぞれ初の3位、5位を獲得。50位の石和温泉は前回より+32ランクアップ。首都圏からの近さに加え、通年で生産される果物を活用した宿プランの提供などによる魅力創出の動きが見られた。年代別では40代の人気トップが入れ替わり、箱根温泉から草津温泉に。30代で道後温泉と有馬温泉、50代で有馬温泉が新たにベスト5にランクインした。

「全国温泉地1年間の訪問経験ランキング」では石和温泉(+24ランク)、あわら温泉(+17ランク)、皆生温泉(+16ランク)などが大きく順位を上げた。

「全国あこがれ温泉地ランキング」は乳頭温泉郷が5年連続1位に。

2022年以降、毎年僅差で入れ替わる1位と2位

## 全国人気温泉地 ランキングベスト50

これまでに行ったことがある温泉地のうち

「もう一度行ってみたい」温泉地

(複数回答5つまで) (n=16,107)

順位	温泉地名	都道府県	集計対象数	昨年順位
1	草津温泉	群馬県	2918	2 ↑
2	箱根温泉	神奈川県	2877	1 ↓
3	道後温泉	愛媛県	2187	4 ↑
4	登別温泉	北海道	2053	3 ↓
5	有馬温泉	兵庫県	1622	7 ↑
6	黒川温泉	熊本県	1590	6 →
7	別府温泉郷	大分県	1566	5 ↓
8	熱海温泉	静岡県	1490	8 →
9	下呂温泉	岐阜県	1455	10 ↑
10	由布院温泉	大分県	1308	9 ↓
11	城崎温泉	兵庫県	1291	11 →
12	乳頭温泉郷	秋田県	1116	12 →
13	鬼怒川温泉	栃木県	990	16 ↑
14	和倉温泉	石川県	973	15 ↑
15	指宿温泉	鹿児島県	946	13 ↓
16	奥飛騨温泉郷	岐阜県	937	14 ↓
17	加賀温泉郷	石川県	887	19 ↑
18	洞爺湖温泉	北海道	874	21 ↑
19	蔵王温泉	山形県	861	17 ↓
20	定山渓温泉	北海道	846	24 ↑
21	玉造温泉	島根県	844	22 ↑
22	嬉野温泉	佐賀県	815	18 ↓
23	伊香保温泉	群馬県	804	23 →
24	奥入瀬溪流温泉・十和田湖畔温泉	青森県	756	20 ↓
25	雲仙温泉	長崎県	721	26 ↑
26	阿寒湖温泉	北海道	693	25 ↓
27	湯の川温泉	北海道	649	31 ↑
28	秋保温泉	宮城県	647	29 ↑
29	八甲田温泉・酸ヶ湯温泉	青森県	625	30 ↑
30	銀山温泉	山形県	618	32 ↑
30	霧島温泉 (霧島温泉郷、霧島神宮温泉郷、妙見・安楽温泉郷、日当山温泉郷)	鹿児島県	618	27 ↓
32	飛騨高山温泉	岐阜県	616	33 ↑
33	万座温泉	群馬県	590	28 ↓
34	湯河原温泉	神奈川県	510	34 →
35	層雲峡温泉	北海道	492	35 →
36	二セコ温泉郷	北海道	472	39 ↑
37	淡路島の温泉 (洲本温泉・南あわじ温泉郷・岩屋温泉)	兵庫県	460	37 →
38	那須温泉	栃木県	459	40 ↑
39	十勝川温泉	北海道	450	46 ↑
40	白浜温泉	和歌山県	447	36 ↓
41	三朝温泉	鳥取県	445	48 ↑
42	四万温泉	群馬県	441	41 ↓
43	鳴子温泉郷	宮城県	436	42 ↓
44	修善寺温泉	静岡県	434	38 ↓
45	宇奈月温泉	富山県	402	49 ↑
46	あわら温泉	福井県	398	45 ↓
47	皆生温泉	鳥取県	389	51 ↑
48	白骨温泉	長野県	385	43 ↓
49	花巻温泉郷	岩手県	360	44 ↓
50	石和温泉	山梨県	359	82 ↑



王道から  
おすすめ穴場温泉地まで

# 選ばれる 温泉地

今年で18回目となった「じゃらん人気温泉地ランキング」。全国1万6107人の投票により、全国327の温泉地から各ランキングが決定。新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類に移行してから初めての投票。日常生活や旅行など、人々の往来がコロナ禍前の状況にほぼ戻ったと言える中で、支持された温泉地とは?各結果を基に、選ばれた理由を探っていく。

写真提供 / PIXTA (P25 温泉津温泉の町並み)

### じゃらん人気温泉地ランキング2024 調査概要と回答者プロフィール

#### 調査概要

調査期間 2023年8月16日(水)～2023年8月30日(水)

調査対象 2022年8月～2023年7月までに

レジャー目的での宿泊予約などを行った『じゃらんnet』会員

調査方法 インターネット上でのアンケートを実施

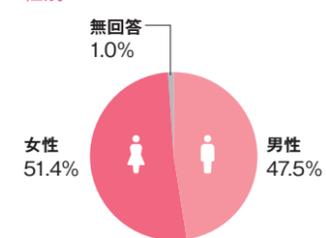
有効回答数 1万6107人

対象温泉地 全国の327温泉地(除く、東京都・沖縄県)を調査対象として設定

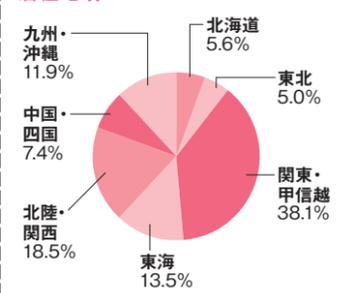
※温泉地名は調査時のものであり、一部の温泉地で呼称が異なる場合がある

#### 回答者プロフィール (n=16,107)

##### 性別



##### 居住地域



## 全国温泉地満足度ランキング・総合部門ベスト20

最近1年間に行ったことがある温泉地のうち「満足した」温泉地  
1年間の訪問者100人以上(単一回答)(156温泉地)

順位	温泉地名	都道府県	満足度(%)	集計対象数
1	高湯温泉	福島県	94.4	124
2	奥飛騨温泉郷	岐阜県	93.4	503
3	黒川温泉	熊本県	93.2	424
4	山鹿・平山温泉	熊本県	93.1	275
5	万座温泉	群馬県	93.0	298
6	乳頭温泉郷	秋田県	92.9	254
6	草津温泉	群馬県	92.9	1093
8	みなかみ18湯 (旧水上温泉郷・猿ヶ京温泉・法師温泉・宝川温泉)	群馬県	92.4	394
9	大歩危・祖谷周辺の温泉	徳島県	92.1	139
9	霧島温泉 (霧島温泉郷・霧島神宮温泉郷・妙見・安楽温泉郷、日当山温泉郷)	鹿児島県	92.1	341
11	由布院温泉	大分県	92.0	436
12	城崎温泉	兵庫県	91.9	509
13	菊池温泉	熊本県	91.8	110
14	奥入瀬渓流温泉・十和田湖畔温泉	青森県	91.7	266
14	別府温泉郷	大分県	91.7	774
16	登別温泉	北海道	91.5	633
16	わいた温泉郷	熊本県	91.5	117
18	四万温泉	群馬県	91.3	320
19	八甲田温泉・酸ヶ湯温泉	青森県	91.2	205
19	白骨温泉	長野県	91.2	102
19	指宿温泉	鹿児島県	91.2	283

**満足度ランキングは常連多し  
穴場上位は昨年と変わらず**

最近1年間に行ったことがある温泉地のうち「満足した」温泉地を尋ねる「全国温泉地満足度ランキング」総合部門では高湯温泉が3年ぶりに1位に返り咲いた。他のランキングに比べて毎年顔ぶれやランキングが大きく変動するが、14の温泉地が昨年と同じくトップ20に入っている。「全国温泉地満足度ランキング」秘湯部門では九重・夢温泉郷が初の1位に。2位に温泉津温泉。10位までのうち黒部峡谷温泉群と乗鞍高原温泉が昨年引き続きトップ10にランク

インした。昨年新設した「おすすめしたい穴場温泉地ランキング」は、1位の乳頭温泉郷と2位の山鹿・平山温泉は前回と変わらず。8位の黒川温泉は他ランキングでも上位に入り、人気、満足度ともに安定。2022年には37年ぶりに入湯手形をリニューアル、有効期限6カ月、湯めぐり3カ所のうち1カ所をお土産に当てることもでき、使いやすく再訪したくなる仕掛けを行っている。昨年15位から3位にアップした温泉津温泉は地域がIターン者らと町づくりを進めてきている。詳しくは次ページから掘り下げて紹介をする。

## 秘湯部門ベスト10

1年間の訪問者数が50人以上100人未満  
(単一回答)(79温泉地)

順位	温泉地名	都道府県	満足度(%)	集計対象数
1	九重“夢”温泉郷	大分県	96.6	59
2	温泉津温泉	島根県	95.0	60
3	あつみ温泉	山形県	94.5	55
4	鞆の浦温泉	広島県	94.3	87
5	黒部峡谷温泉群	富山県	94.2	69
6	乗鞍高原温泉	長野県	93.8	64
7	湯平温泉	大分県	93.5	62
8	肘折温泉	山形県	93.3	60
9	南木曾温泉郷	長野県	92.9	56
10	香住温泉郷	兵庫県	91.5	82

※満足度＝「とても満足」「やや満足」「どちらともいえない」「やや不満」「とても不満」のうち、「とても満足」「やや満足」と答えた人の割合を合わせて算出

## おすすめしたい穴場温泉地 ランキングベスト30

これまで行ったことがある温泉地に対して「おすすめしたい穴場温泉地」の推奨率

(複数回答5つまで)(n=16,107)  
※推奨率(%)=おすすめしたい穴場温泉地の投票数÷訪問経験がある温泉地の投票数

順位	温泉地名	都道府県	推奨率	集計対象数
1	乳頭温泉郷	秋田県	30.5%	702
2	山鹿・平山温泉	熊本県	26.8%	300
3	温泉津温泉	島根県	26.0%	137
4	長湯温泉	大分県	25.4%	153
5	肘折温泉	山形県	25.2%	142
6	わいた温泉郷	熊本県	24.9%	169
7	高湯温泉	福島県	24.8%	182
8	下風呂・薬研温泉	青森県	24.2%	127
8	黒川温泉	熊本県	24.2%	873
10	八甲田温泉・酸ヶ湯温泉	青森県	23.7%	447
10	松之山温泉	新潟県	23.7%	94
12	銀山温泉	山形県	23.6%	384
13	ぬかびら源泉郷	北海道	23.0%	143
14	中ノ沢温泉	福島県	22.9%	63
15	鈍川温泉	愛媛県	22.8%	78
16	濁河温泉	岐阜県	22.7%	111
17	夏油高原温泉郷	岩手県	22.4%	113
18	秋山郷	長野県	22.3%	40
19	奥飛騨温泉郷	岐阜県	22.2%	729
20	貝掛温泉	新潟県	19.9%	58
21	小安峡温泉・秋の宮温泉	秋田県	19.6%	83
22	真木温泉	山梨県	19.5%	15
23	白骨温泉	長野県	19.1%	273
24	尻焼温泉	群馬県	18.6%	70
25	大歩危・祖谷周辺の温泉	徳島県	18.5%	275
26	小田・田の原・満願寺温泉	熊本県	18.1%	103
27	大峯山洞川温泉	奈良県	17.6%	48
28	カルルス温泉	北海道	17.4%	112
28	夕日ヶ浦温泉	京都府	17.4%	214
30	十勝岳温泉	北海道	17.1%	125

# Iターン者とともに 進める町づくり

全国温泉地満足度ランキング 秘湯部門 2位  
おすすめしたい穴場温泉地ランキング 3位

## 温泉津温泉(島根県)

泉質の良さと昭和レトロな雰囲気知られる温泉津温泉。全国にこのような小さな温泉地は数多くあるが、満足度の高い秘湯、おすすめしたい穴場として上位にランクイン。熱い支持を受けた温泉津温泉の独自性とは？民間主体の町づくりによる、人々を魅了する温泉地力を、現地取材から解き明かしていく。

ゲストハウス、飲食店が多数。  
最初の一步は20年前

昭和レトロと表現される町並みの中には、その規模に比べて、古民家を活かした飲食店やゲストハウスが多く存在する。元来そういう店舗が軒を連ねていた場所ではない。鄙びた風情を感じながら、今どきの滞在ができる温泉街は、この地を大



温泉津温泉には外湯が2軒。写真は源泉が約1300年前から湧き続けていると言われる「泉薬湯 温泉津温泉元湯」。

切に思う地域の人々とIターン移住者たちによって作られてきたものだ。「温泉津はいい温泉が出るところではあるけれど、温泉しかないと思われることが納得できず、たとえ温泉がなくてもやっていける術を持つ必要があると感じていました」(小川知興さん)。20年前にUターンで戻ってきた小川さんは、そのきっかけとして古民家を改修したカフェのオープンを考える。当時の温泉津は1泊旅行で訪れる温泉地という位置付けで、温泉街にはお昼ご飯を食べられる店がなかった。初の試みに近隣の一部からは「この町にそんな店は必要ない」という声も出る。そこでまず1年かけて計6回、2カ月に1回のペースで週末を使い、お試行的にカフェを開く。そして経済効果を探



温泉津温泉は2007年に世界遺産に登録された石見銀山エリアの、銀の積出港として栄えた港町にある。温泉街としては2004年に初の重伝建(重要伝統的建造物群保存地区)に指定された



Cafe & Bar 路庵は築115年の古民家をリノベーション。2007年度に第15回しまね景観賞「民間建築物部門」奨励賞受賞。宮里さんの実家の工務店が改修を担当した

るとともに「このカフェの必要性」について地元、観光客を問わずアンケートを取った。実に95%の人が「必要」と答えてくれた成果を県庁に持ち込み、そこから地元の理解を得て、温泉街に最初の店「Cafe & Bar 路庵」が誕生することになった。当時、お試しカフェを手伝った宮里陽子さんによれば、宿泊客は来てくれるけれどそのほとんどが高齢者。同世代の知り合いが数えるほどになつていった時で、残っている若い人たちが何かを仕掛けていかなければこの町はなくなってしまうのではないかとという危機感を感じたという。「こういうカフェにこんな人が集まるんだと実感して、きつとダメだ、来ないだろう、という考えから、やってみれば来るかもしれない、という発想に転換しました」(宮里さん)。

小川さんは15年ほど前に、今度は古民家を改修してゲストハウス「無う」を開業する。これが、温泉津温泉のゲストハウス第1号になった。温泉津温泉で営業している旅館は7軒。施設数だけで見れば、その数を上回るゲストハウスが温泉津には存在している(2024年1月時点)。事業者は新規参入者だけではない。老舗旅館輝雲荘も、ゲストハウスを2軒運営。親戚や同級生などの使わなくなった家を活用し、1棟貸しと長屋風に。「経営者が高齢化して引き継ぐ人のいない温泉宿は空き家になってしまふ。民家も含めて空き家が多いと温泉街は活気が失われてしまふので、直して活用できればと始めました」(輝雲荘 金崎公一さん)。温泉街で旅館が経営するゲストハウス。今から10年前としては、温泉津に限らず珍しい存在だったのではない。そしてこのあと温泉津には、Iターン者らによるゲストハウスや飲食店が増えていくことになる。



温泉街にある龍御前神社で夜に行われる伝統芸能、石見神楽。触れるほどの近さで鑑賞できると評判

見られるようになってい。「次のチャレンジ」になってくる20代の人たちに来てもらうためには、より暮らしやすい環境作りもこれらの課題になるかと

世界遺産登録で盛り上がったものの、翌年にはリーマンショックがあり落ち込んでしまった。そこから寂れ始め、12、3軒あった旅館が7軒にまで減少。「旅館はほとんどが家族経営のため人手が足りず、イーターを含めた若い世代の活躍を旅館組合としても大変頼りにしていません」(金崎さん)。

大切なものを残し変わらないためにどのように変わっていくか



温泉津ビールの他にゆのつエール、YUNOTSU シードル、TORASAN BEER、はるかながある。シードルに使う柿やみかんの回収、皮むきなどは温泉津女子会や、地元女性などの協力による手作業



ショーを楽しんで指名もOK、大いに盛り上がりを見せた温泉津女子会による「BAR」。下はシャンパンコールの場面

「元々ある資産(＝温泉)だけをよしとせず、変わらないうために変わる、という選択をどのように行っていくか。「ゲストハウスの客単価は低いかもしれないけれど、新しい客層の取り込みはうまくいったと思います。そしてゲストハウスが増え、宿泊客は飲食店や外湯など外の施設を利用することで、自然な形で地域一帯が一つの宿となる『アルベルゴディフイーゾ』が進んできた。それでもこの町にはまだない機能があるはず。これからは古民家を活用した、ゲストハウスでも飲食店でもない業態のものが出てくると思っています」(小川さん)。

※集落に分散する空き家を改修して客室として見立て、建物単体ではなく地域一帯を使って宿泊施設と見立てるイタリア発祥の取り組みのこと。



大森町の町並み。生き方暮らし方を提案する「石見銀山群言堂本店」もここにある

43年前に夫の故郷・大森町に帰郷した当時、ここは鉱山閉山後の廃墟の町でしたが、物作りをして生計を立てようと考えていました。中村ブレイスさん(義肢装具メーカー)という、町を愛して事業を始めた先輩にも影響されたと思います。観光客などほとんどいなかった35年前に現在の群言堂本店となっている建物を購入し改修。それから10年ほど経った頃から私たちの考え方に共感して働きたいと少しずつ仲間が増えてきました。現在働いている人の約7割がイーター、イーターで、大森町の町並みの中に住みたいと希望する人も多い。古民家を借りたり買いつつ改修して、できるだけ希望に添えられるように協力をしています。中村

ここでは町のことを町民が知恵を出し合っています。例えば、世界遺産登録時にはパーク&ライド方式を採用し、町の中に観光バスが入らないようにしました。私たちは穏やかさと賑わいの両立を目指しているのです。これからますます多様な方々がこの町に訪れてくださることによりさらに活性化し、より魅力のある町になるのではと思っています。

温泉津温泉とともに石見銀山エリアの魅力を支える大森町の町づくり

松場登美さんの前身「プラハウス」をオープン。1998年に石見銀山生活文化研究所を設立し、現在は相談役を務める



写真提供/石見銀山群言堂グループ



取材に協力くださった皆さん。左から金崎公一さん(温泉津温泉旅館組合長、寛ぎの宿 輝雲荘代表)、渡利章香さん(清水大師寺/お寺カフェ、宿坊)、近江雅子さん(WATOWAグループ代表)、宮里陽子さん(cafe Yo-henオーナー)、小川知興さん(小川商店代表、路庵オーナー)

「コロナ禍では思うように営業できなかつた首都圏のシェフの方にとっては、体一つで来られて仕事ができながら働くことでこの町の良さを知り、移住に繋がっていききました。ゲストハウスに滞在されて移住を決められた方もいます」(近江さん)。

「夜神楽」が行われており好評を博しているが、小川さんも多くのイベントを開催している。「温泉がなくてもやっていける町にと考えた時に、趣味趣向など夢中になれるものがないと思っただけです。宿泊や飲食の利用増加など、経済効果も考えて企画しています」(小川さん)。夏祭り、

「夜神楽」が行われており好評を博しているが、小川さんも多くのイベントを開催している。「温泉がなくてもやっていける町にと考えた時に、趣味趣向など夢中になれるものがないと思っただけです。宿泊や飲食の利用増加など、経済効果も考えて企画しています」(小川さん)。夏祭り、

「イーターが定住、定着し起業する町、温泉津」

「だお寺の仕事を手伝いながら1軒目の『湯るり』をオープンしました。同業なのでライバルになるかもしれないのに旅館の皆さんが応援してくださり、横の繋がりを大事にする町だと思いました」(近江さん)。

「地域や環境を活かしたイベントで、地域を巻き込み、味方に」

「温泉津の飲食店や土産物店で目にする『温泉津ビール』。2020年に誕生したこのクラフトビールを手がけるのは「温泉津女子会」。近江さんが宮里さんや地元出身のお寺を継いでいた渡利章香さんと出会い、2015年に発足したグループだ。「2007年に世界遺産に登録された時は多くの人が訪れ盛り上がりつつあったけれど、その熱が冷めるのも早く、町はすぐに寂れたようになっていきました。当時は若い世代の女性だけで活動している団体はなかった。これまでになかった女性目線を大切にやっていたこうと始まりました」(渡利さん)。



ゲストハウスWATOWA。通りから見えるランドリーとその奥にあるシェアリングキッチンでの飲食は、宿泊者以外も利用可。温泉街にある飲食店にはサウナやギャラリーのある店舗も